

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年4月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4676100235号
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム隼人
所在地	鹿児島県霧島市隼人町松永3630-3 (電話) 0995-64-2520
自己評価作成日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉の湧き出る一角で自然と緑に囲まれた高台に位置しており、ゆっくり過ごせる静かな場所です。2階からは眼下に日当山や国分、そして雄大な桜島が見ることができます。周りは住宅街なので利用者は散歩を楽しまれたり、近所の方とあいさつを交わしながら楽しく暮らしておられます。中庭では地域の方々との交流で餅つき・ソバ打ちも行っています。開設10年を迎え年齢や介護度も高くなりました。車椅子使用の方も多くなりましたが皆様お元気で素敵な笑顔で過ごされています。職員も利用者中心の介護支援を心がけながら日々励んでいます。入居者様・ご家族・職員が明るく笑顔・笑い声があふれるユニットづくりに力を入れ支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな温泉団地の高台に建てられたホームで、日当山温泉郷に隣接しており、利用者はリフト浴や大浴場で職員の手厚い介助のもと、ホームに居ながらしてかけ流しの温泉浴を楽しめる恵まれた環境にある。

庭の東屋では、バーベキュー大会や餅つき、そば打ちなどの行事が行われ、近隣の住民の参加があり地域の恒例行事として浸透している。利用者にとっては、地域住民との触れ合いの機会にもなり大きな喜びや生きがいに繋がっている。

2階建て2ユニット、平屋建て1ユニットの計3ユニットの大所帯のホームであるが管理者や各ユニット責任者は合同のミーティングで情報を常に共有し、問題点や改善策など話し合いサービスの質の向上に努め実践している。

長年の問題点であった2階からの避難誘導の最善策として、平成24年度に2階のベランダより避難用の滑り台の設置が実現し緊急時の利用者の避難経路が確保された。運営推進会議において3年かかりで検討、要望を訴え続けてきた職員、老人会会長、ボランティアなどの根気強い働きかけの賜物であり利用者の安全へ繋がる大きな成果である。

母体である法人との医療連携体制や職員に看護師を配置するなど健康管理も充実している。職員は利用者一人ひとりの変化に気付き、その思いを感じとりながら笑顔のある生活ができる様にケアに努め、さらにサービスの質の向上に意欲が感じとられるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングで理念についての認識を高めるよう努めている。	設立当初からの理念を各ユニットの玄関・壁に掲示し、朝礼や会議では唱和している。職員は四つの理念の中一つを毎日ノートに書き実践出来る様努めている。現在ある四つの理念を各ユニット間で話し合い一つの理念へと見直そうと検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の設置場所、地域性などの環境面からなかなか日常的交流は難しいが地域交流会、行事等では努力している。	町内会へは未加入であるが、地域住民をホームの行事へ招待したり、ボランティアの受け入れや地域の行事には声掛けをしてもらうなど積極的に相互の交流を持てるような努力をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	人材育成の貢献として、労働安定センターの実習生を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回実施している。各ユニット持ち回りで開催し、それぞれのユニットの状況を見て頂いている。	2ヵ月毎の会議には自治会・行政・家族・ボランティア・老人クラブ会長や母体法人と各ユニットからも出席し行事報告や意見・要望を聞き話し合っている。災害時用の滑り台設置は3年掛けて論議して実現した成果である。会議での意見をサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開催する事で市の方との繋がりもでき相談しやすい関係にある。霧島市主催の催し物にもなるだけ参加するようにしている。	長寿福祉課や地域包括センターとは運営推進会議へも参加してもらい連携が取れる関係にある。市主催の健康福祉祭りにも参加し協力関係作りにも積極的に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が少ない時など外に出て行った事に気づかないことがある。安全性を保障できないので家族の了承を得て玄関に施錠させて頂く事もある。	マニュアルは作成しても事例が無いことで職員の研修に至らなかったが、平成25年度より「身体拘束ゼロ対策委員会」の発足が決定している。身体拘束廃止実施のチェックシート・チェックリストを作成し、職員全員で研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常、日頃から虐待は絶対避けるよう職員一同心がけ、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、参加した職員から話を聞き職員一同の理解を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者の気持ちを知る事に重点を置き、十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や担当者会議などの際、利用者も含めた会話などを通じ、意見・要望の把握に努めている。	年1回の3ユニット合同の家族会や面会時に意見・要望の聞き取りをしている。遠方の家族には電話でのやり取りで聞き取りし、運営やケアに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各ユニットの責任者・介護主任は月1回会議を行い職員の意見・要望等を伝えている。	毎月の会議で職員の意見や提案を聞いている。管理者は職員の個別の相談にも応じ、母体法人へ連絡相談し解決策を取り、働きやすい環境作りに努め運営やケアに反映させている。職員の資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援は行っている。健康診断も年一回実施している。夜勤業務をする職員は二回実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自主的な外部での研修参加や向上心はなかなか望めない。せめて、法人内（みゆき苑・GH）の勉強会は参加するように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議の中で、他施設を訪問するツアーがありそこで情報の交換や利用者様との交流が図れた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を密にし、本人の不安、要望等を把握し初期計画で本人が安心して生活できるように努めている。受け持ちを決めより深く心に寄り添う事で新しい生活に早く慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配事、要望などに真心を持って傾聴し共に考えていく姿勢で臨み信頼関係を作る努力をしている。電話等で生活の様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに、今必要としている支援を見極め、家族の協力も得ながらの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の最後の締めくくりの場所として選んだホームでの生活をその人らしく、有意義に過ごせるように、「自分の家族だったらどうだろう」との気持ちを持って接するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病気や不穏時はもちろん改善や回復などみられた時も電話や手紙などで知らせるなどして協力を得たり、相談したり、喜びや安心感を持って頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内や知人などの面会時は写真を撮り、部屋に貼ったり、写真集に収め見ていただき何時でも覚えておられるようにしている。時に、生地訪問し記憶をたどって頂けるようにしている。	病院受診時に馴染みの知人に会ったり、その知人が来訪するケースもある。面会が少ない利用者に対しては家族と連絡を取り合い訪問をお願いする事もある。生地訪問をしたり自宅の写真を撮ったりと馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、ボール遊び、輪投げなど皆で拍手や声援をするなどして気持ちを通い合わせている。洗濯物たたみも数人一緒にしながら教え合ったり、尋ねたりし触れ合いがある。家族的雰囲気保てるように考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれたり、入院中に退所された場合、訪問したり電話で減所を知り、相談に乗ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴したり、日常の会話の中からその方の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族の意向も反映しながら本人本位に検討している。	アセスメントや家族からの情報から利用者の思いや希望の把握に努めている。困難な場合は傾聴・表情の読み取りなど本人本位で検討している。職員は個人のケース記録簿や申し送り時に利用者の情報を共有し、ケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの把握はなかなか情報不足な場合が多い。家族や知人の面会時や行事参加などの会話の中から知り得る事もあるので、その機会に把握が出来るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察やバイタルサインチェック、ケース記録、申し送り等を通し現状把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミニカンファレンス、月毎のユニットミーティング時に、意見を出し合いそれを介護計画に活かしている。受け持ち職員に特に意識を高く持ってもらい、意見を出してもらうようにしている。	利用者毎に担当職員を決めて細かいケアに取り組み、カンファレンスやモニタリングを重ねている。プランは本人・家族・看護師・主治医などの意見を聞き取り、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を心掛けるようになって、情報を共有し、ケアの継続性が出来てきたようだ。意識化も強まり問題定義したり、アイデアを出したりが見られている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに対して柔軟に対応している。急な外出や外泊などにも柔軟な支援で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容サービスを利用したり、馴染みのお店から出前を取ったりして地域資源を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望されたかかりつけ医で医療を受けられている。	歯科医を含むホームの協力医の往診の他、利用者や家族の希望を尊重したかかりつけ医の定期受診の支援をしている。受信時には職員が付き添い、結果を家族へ電話で報告したり、毎月のホーム便りに載せるなど個々に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師に情報や気づきを伝える。相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。かかりつけ医に相談し指示を受ける時もある。現在看護師は介護との兼務のため充分力を出し切れないことがある。職員の観察と気づきが大切である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は毎回早出、遅出が病院を訪問しお見舞い、洗濯物を持ち帰ったり、届けたり本人や家族にも安心をさせていただいている。必要時は病院関係者に相談したり情報を得たりし関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>急変時の対応について、家族の意向を知りまた、主治医にも伝えていく。終末期の在り方について家族と話し合いどのようにする事が本人にとってよいことなのか考えるようにしている。関係医療機関のDrやNsにも相談や報告をするように努めている。</p>	<p>職員は看取りの勉強会を定期的に行っている。これまでに看取りも経験済みであるが、家族同意の明文化がなされていない。看取りの方針を職員で共有し、最善の支援が出来る様取り組んでいく方針ではあるが、現在明文化に向けて家族などにアンケートを取り検討中である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>夜間、発作時の対応、特に他者の危険性を考えながらの対応なので、すぐ駆けつけれる人員又は、夜間の勤務人数等の検討も必要と考える。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に訓練は実施している。ただ、地域の訓練がない。各ユニットにスプリンクラーは設置されている。</p>	<p>職員に防火委員2名の担当を決めている。2カ月毎に夜間想定自主訓練を行っている。設置された滑り台を使用しての昼間の避難訓練を地域住民も参加しての合同訓練を検討中である。災害時の備蓄も確保されている。</p>	<p>地域住民の参加を得て昼間の合同避難訓練を行い、更には実施記録を残すことで改善点を記録し、次回の訓練や災害時に向けての取り組みに活かせることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として常に尊敬の念を持って対応・言葉かけするように心がけている。また、排泄、入浴、更衣時等特にプライバシー確保に努めている。	利用者への呼びかけは家族に聞き取り了解を得て声かけしている。利用者に合わせた言葉掛けを使い、職員は慣れと親しみの違いを認識し尊厳を重んじる対応に努めている。法人全体での研修へも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の行動や表情の観察、傾聴する事などを通してその方の思いや希望を知るように努めている。思いや希望を表したり自己決定できる雰囲気づくりや信頼関係も大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務の流れの中で、利用者の思いや希望を大切にし利用者中心の介護支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その方にお似合いのもの、希望のものを取り入れ清潔感が保てるよう支援している。洋服の汚れやボタンが取れていないか等のチェックも行っている。トイレ誘導後などの衣類の乱れがないように気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみにされている事のひとつなので盛り付けをきれいにしたり、職員も一緒に食事を摂り見守りや会話で他のいい時間になるように支援している。出来る方は、テーブル拭き、食器の片付け、洗う事など職員と一緒に行っていただいている。	利用者へ下調理や茶碗洗いなど出来る事は手伝ってもらっている。季節感を持ってもらうために餅つきや蕎麦打ちを楽しむこともある。東屋で出前や弁当を食べることや、毎週土曜日の「刺身」は利用者の楽しみの一つである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った（日ごろの観察を通し）食事の量や好きな飲み物、ジュース、ゼリーを準備し食事形態もその方に応じた内容（普通食・ミキサー・刻み）にしている。水分確保は1500cc/1日を目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた支援で口腔ケアを行っている。見守りが必要な方が殆どで出来る限りはご自分で、その方のペースに合わせながら必要な介助のみを行うようにしている。うがいにはお茶を使用している。うがいの出来ない方は口腔ガーゼでイソジン液を浸けて清拭し、肺炎予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意のない方も時間毎のトイレ誘導でトイレでの排泄を心がけている。トイレに座ると排尿が見られる方もおられる。失禁のある方もない方もなるべく布パンツにパットを使用するなどしてオムツへの移行を遅らせるようにしている。清潔が保てるよう清拭、洗浄も度々行っている。	排泄チェック表で個別に対応している。時間や様子を見てさりげなくトイレへ誘導し自立での排泄を支援している。声を発することで尿意の合図をする利用者もいる。トイレでの立位保持が困難な場合や、自分でパット装着する利用者に対しては最小限の介助と最終確認をするなどして自立に向けた排泄のケアに取り組んでいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝（起床時）冷たい牛乳を飲んで頂きおやつ時に焼き芋・ヨーグルト・果物など水分を多く摂る等の工夫を行っている。少しでも歩ける方は車いすのみでなく歩いて頂いたり活動時体操や腹部マッサージなどをしたりし予防に努めている。排便困難時は主治医に相談し緩下剤など使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は楽しみのひとつである。皆様喜んで入っておられる。ラジオを聴きながら入る方もおられる。入浴の拒否時は時間をずらしたり翌日にしたりと配慮している。1日置きの入浴であり時間は職員で決めている。	週3回の入浴だが回数に限らず支援している。利用者は状態に応じてリフト浴や大浴場で温泉浴を楽しんでいる。異性介助での支援も可能だが、必要に応じて同姓での介助で入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方々のみであり、午睡は時間を設定しているが強制ではなくフロアで過ごされる方もおられる。ベッドでの休息を希望される時は臥床して頂くが長時間にならないように見守っている。寒い時期は湯たんぽを使用させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員との確認、利用者との確認を声を出して行うなどし確実に服用（誤薬がないよう）にしている。飲み込んだかを確認する時もある。薬の目的、副作用は薬の指示が出た時確認し症状の変化など記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた役割を職員と一緒にやっている。生き生きとされている。レクリエーションも午前・午後と行っている。天気の良い日は苑周辺の散歩、戸外活動で気分転換を図っている。誕生会でのすし飯・ケーキも楽しみのひとつである。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望があれば時間の許す限り散歩やドライブにお連れしている。遠出は高齢のため積極的に取り入れてない。毎年、近くの川沿いにお花見に全員お連れしている。家族との面会時の散歩、外出、外食などで楽しむことができるよう支援している。	利用者の希望があれば買い物や短時間ドライブに連れて行くこともある。家族が自宅へ連れて帰るケースもある。散歩・外食などや、近隣の花見には全員参加している。本人の希望を把握して、外出支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の支払いや所持が出来る方は、夏祭りや外出時使えるように支援している。買い物希望しパンを買いに出かけ、お金を自分で支払ったり出来るよう計画している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>送り物が届いた時は本人に電話でお礼を言って頂くよう支援している。希望時は電話の取りつぎを行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内やホールに季節毎の写真や塗り絵を貼ったり、花を生けたりしている。ユニット全体に新鮮な空気が流れるように換気している。</p>	<p>利用者の手作り作品の貼り絵や塗り絵、また行事参加時の写真などが壁に飾られている。高台に位置しているので毎日気持ちよい景観がリビングからは楽しめる。昼寝を楽しめる畳コーナーもあり、生活感・季節感を取り入れ居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>見守りする中で独りになれたり、テレビの前にお連れしたり会話の弾む席を設けたりひなたぼっこで歌ったりレクリエーションをしたり畳のスペースで一緒に洗濯物をたたんだり居場所の工夫を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた箆笥や鏡台、家族写真、位牌などを置いて生活されている。面会時には出来るだけ写真を撮り、室内に貼り家族を忘れることがないように安心感が少しでも得られるように工夫している。受け持ちの職員が中心になり居心地良い部屋づくりをしている。	利用者が使い慣れた馴染みの箆笥や鏡台を置いている。中には位牌を置いている方もいる。本人が居心地よく過ごせるよう家族や担当職員がいっしょに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の方にも車椅子の方にも安心・安全に生活して頂けるよう環境づくりに努めている。介護度が高くなり車椅子使用の方が増え、歩行能力も低下しつつある人も座る事を考えると風呂場やトイレが狭く床も損傷が目立ってきたなど危険要素も多く改善の必要がある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム隼人 1ユニット(たんぽぽユニット)

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない